

授業科目	宿泊業特講			担当教員	井門 隆夫		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1・2年／集中	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>本講では、日本各地の事例やデータをもとに、地方の宿泊業のあり方について考察する。日本の宿泊業は、旅館業・ホテル業・簡易宿所に分けられるが、ホテル業・簡易宿所を中心に都市部では増加が続いている一方、地方では旅館業を中心に減少の一途をたどっている。このままでは地方観光経済の発展はない。世界中の主要国で日本同様の生産年齢人口の減少が始まっており、日本の地方を研究することは、今後世界中で起こりうる現象を予測することにもなる。本講では、日本の経済・観光・宿泊業に関する統計データを分析するとともに、地方の宿泊業について考察して現実的課題をあぶりだし、地方の魅力を伝え、将来に向けた「解決策」（提言）を企画・立案する。</p>							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
関心・意欲 ・態度	教室での講義に積極的に参加し、適切な質問や意見交換ができる。			授業の冒頭で配布するルーブリック（評価基準表）に基づき評価する。		20%	
思考・判断	消費者の視点ではなく、サービス提供者の視点から物事を考え、統計データから業界の将来を予測することができる。					20%	
技能・表現	PCを使い、統計データをExcelで集計・分析し、Powerpointにまとめてプレゼンテーションできる。					20%	
知識・理解	観光産業の主要産業である宿泊業に関して、経済環境・事業特性・事業上の問題点を理解し、解決提案ができる。					40%	
出席							受験要件
合計							100%
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<p>参加度・小テスト・発表資料等に関して、それぞれの観点ごとの到達レベルを説明したルーブリックを冒頭で配布・解説し、どの程度のレベルが期待されるか、初回に共有する。</p>							
授業の概要							
<p>本講は、4日間の【集中講義】で、「講義」と「問題解決策の提案作成」から構成される。ケーススタディは全国各地の事例を紹介するほか、受講生自ら調べて考察する。講義では、地方宿泊業を取り巻く経済的環境を理解した上で、自分なりの興味を持つ分野を特定し、問題意識を醸成したうえで改善提案を立案し、必要なデータのありかを示すので実際に自ら分析してグラフを作る等をして、提案をまとめていく。</p> <p>課題をひと言で言えば、「人口が増加していた時代の事業モデル」を引きづっていることであり、そのために宿泊業は苦戦している。今後は「人口が減少する時代の事業モデル」に転換する必要がある、そのためには様々な発想の転換やイノベーションが求められる。では、実際の宿泊業経営者はそうした課題をどう認識し、現場ではどのような現実的課題があるのか、現地調査にてインタビューを行う。各自の問題意識をもとに、データ分析と現地調査をまとめ、宿泊業活性化に向けた提言を制作・完成させる。※企画はPCを使うので、ノートPCを持参すること。</p>							
教科書・参考書							
<p>【教科書】 特になし 【参考書】 観光白書（観光庁）、中小企業白書（中小企業庁）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>大学周辺を含め長崎県内及び日本全国の地方には数多くの宿泊業が存在し、厚生労働省への登録軒数は約4万軒である。では、実態として本当にそんなにあるだろうか。実際は何軒くらいだと思うか。その差は何だと思うか。授業外でも興味をもって洞察してみたい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	ガイダンス	講義の進め方、時代変化の重要ファクターについて	地方宿泊業の置かれた環境や都市部の宿泊業との違いについて授業資料をもとに理解しておく（小テストあり）
2	地方宿泊業の課題	資本不足、人材不足、需要不足の3つの課題の解説	
3	地方宿泊業の人材不足	地方宿泊業が直面する人材不足の背景について	
4	地方宿泊業の労働生産性	労働生産性はなぜ低いのかを分析する	
5	小テスト、旅館業のサービスモデル	多業態の旅館業の特性について	地方宿泊業の問題の深掘りができるようになり、財務的な内容も理解できるようにしておく（小テストあり）
6	旅館業の事業承継	旅館業は家業か企業か	
7	債務超過と事業再生	債務超過の旅館業をいかに再生するか	
8	地方宿泊業の需要不足	地方宿泊業が直面する需要不足の内容について	
9	地方宿泊業の新業態	様々な新業態が生まれてきている時代考察	実際のケースに関する再生提案を作成してくる（発表あり）
10	ケーススタディ①	実際のケースを想定して問題提起する	
11	解決策の提案・討議	再生手法について考え、その内容を討議する	
12	ケーススタディ②	実際のケースを想定して問題提起する	
13	解決策の提案・討議	再生手法について考えたものを発表・討議する	これまでの知識を総動員し、業界に向けた提案を作成する
14	宿泊業界への問題提起	業界全体のイノベーションについて提案を作成する	
15	提案の発表	提案に関する討議とふりかえり	